学年通信

『なかま』

四日市市立三滝中学校
第２学年 第２０号
2021.11.19.

『水平社宣言』から感じたこと…

映画「三月三日の風」。全国水平社を立ち上げた西光万吉たちが、どんな思いでこの宣言を創り上げ、読み上げたのか。小学校の時は、現代語訳(読みやすく簡単に表現した文)を読んだ経験はあるようでした。今回は原文を読むことで、その表現から感じることなどを考えました。

難しい表現の中に、今まで差別を受けてきた悲しみや憎しみ、苦しみが込められた表現。何より、人として扱われなかったような経験。その宣言文の最後を、「人の世に熱あれ　人間に光あれ」という言葉で締めくくったことから、どんなことを感じるのかを書いてもらいました。

・自分たちがされてきた差別は、されてもしょうがないことではなく、されるのはおかしいことだという思いを、たくさんの人たちに呼びかけているのだと感じられた。
・とてもつらい思いをしてきたことが伝わったし、人の世の冷たさが感じられた。差別されてきた人たちだからこそ、人の温かさや希望をもつことの大切さがよくわかるのだろうなと思った。この言葉は、水平社の一番強い願いだったのだろうなと思った。
・今までの苦しみやつらさを水平社宣言の文にすべて入れて伝えたと思った。入れたことによって、怒りの思いが伝わってきた。苦しみやつらさから立ち上がり、立ち向かおうとするところはとても印象に残った。この水平社宣言は、差別を受けてきた人しか書けないし、言えないと思った。

・今までずっと苦しい思いをし続けていたから、平等で温かい世の中へ必ず団結していこうという強い気持ちが表れている。少数だとしても全国にいる人が団結すれば変えることができる。その人々はみんな、冷たい世の中に生きてきたから、その人の手で温かく自由な未来を作るという強い意を宣言していると思った。
・傷つけられたり、馬鹿にして笑ったりして人の気持ちを不幸にされるのが差別。それに対して水平社ができ、訴える力や、未来、自分の意思が、熱であり光であると感じ取れた。最後に希望や未来のことや勇気づけることが書かれていると感じた。

・この言葉は、差別がなくなっていく一番の条件であったのだろう。
・今文章でしめる(終わる)と、最後が温かい感じがしていいのかなと思った。心から、人生の熱と光を願求礼賛(心から願い求め、素晴らしいものとしてほめたたえること)するものであるから、もう一度熱と光を強調していると思った。
・差別がある世の中は冷たいけれど、水平社宣言で少しだけ温かくなったと思いました。今も差別はなくなっていないので、私たちが差別をせずに少しでも差別を減らし、温かい世の中にしたいと思いました。

・100 年たって自分で読んだだけでも、心が痛くなり、考えさせられるものがある話だった。100 年前、その場で聴いていた人たちは、ものすごく心に残り、胸が痛くなり、差別のひどさに気が付いたのではないかなと思った。
・ここまで苦労して自由を手に入れたんだなと思った。世の中は今でもとても温かいとは言えないが、この水平社宣言で昔よりかはだいぶ温かくなったんじゃないかと思った。
・全国の人々へ向けての思いが一人で行動できなくても、協力・団結することで前に進め、人の世に熱あれ、人間に光あれが実行できるのではないかなと思った。
・この水平社宣言を聴いていた人々が、その言葉に心を打たれ、差別をなくそうとする人が増えてきたのだと思った。西光万吉さんたちが行動を起こしたことにより、差別が少なくなっているので、『行動する』ということの大切さがわかった。

私はこの仕事をしていて、恥ずかしながら３年前の学年を担当していた時に初めて、真剣にこの『水平社宣言』を読み、生徒とともに考えました。読めば読むほど発見があり、知れば知るほど気になって、読むたびに目頭が熱くなるような感情をもちます。それと同時に、この宣言文に込められた、水平の精神(「かわいそうだから」ではない、共にみんなで考えようという気持ち)に感心します。

皆さんが、何か困ったことにぶつかったとき、どのように解決(乗り越えて)していきますか？ 困っている人を見つけたとき、どのように解決していきますか？ 正直私は、三滝中で人権学習をしてきて、この歳になって初めて気づかされることがたくさんありました。水平社宣言に込められた思いに気付いた今、もしかしたら今までとは考え方が変わった！という人がいるかもしれません。こうした一つひとつが、あなたを成長させます。すぐに解決することばかりではないですが、時間をかけて考えていきましょう。そのための大切な仲間を、少しずつ増やしていきましょう。